

近畿地区高等学校 PTA 連合会 和歌山大会 参加報告

令和8年7月4日（土）、PTA 会長と本部役員 1 名の計 2 名で、近畿地区高等学校 PTA 連合会和歌山大会に参加してまいりました。対面とオンラインのハイブリッド開催で、近畿各地から 751 名の参加があったようです。

会場である和歌山城ホールに足を踏み入れると、館内は木の温もりと心地よい香りに包まれており、目の前には和歌山城を望むことができる素晴らしいロケーションでした。

今年の大会テーマは、

「一期一会 ～この出会いから広がる PTA の『和』と活動の『輪』～」

でした。

開会前や休憩時間には、地元高校生による吹奏楽の演奏やバトン部のパフォーマンスが披露されました。高校生たちの生き生きとした姿や高い能力に触れ、改めて子どもたちの将来の可能性の大きさを感じる機会となりました。

実践発表では、和歌山県高等学校 PTA 連合会顧問の山田博章氏による「PTA 活動を通じて全国に広がる友人の和と輪」と題した講演を聴講しました。20 年にわたる PTA 活動の経験を通じて築かれた多くの人とのつながりについてお話しいただき、人と人との縁がさらに新たな縁を生み出していくことの素晴らしさを実感しました。お子様 3 人の成長を支えながら長年 PTA 活動に尽力されてきた山田氏のお話には、大変感銘を受けました。

記念講演では、和歌山県立和歌山北高等学校出身で、フェンシング日本代表ジュニア世代の指導やオリンピック解説でも活躍されている山口徹氏による、

「剣が結ぶ PTA の『輪』～東京・パリオリンピック解説の裏側と子どもの可能性を広げるサポート～」

と題した講演が行われました。

山口氏は、フェンシングのルールを知らない人にも分かりやすく競技の魅力や見どころを紹介してくださり、近年活躍している日本選手についても興味深く学ぶことができました。また、「子どもたちには積極的に失敗を経験させることが大切である」というお話が特に印象に残りました。人は失敗から学び、成長するという考え方は、子育てや PTA 活動にも通じる大切な視点であると感じました。講演の最後には家族の存在の大切さについても触れられ、改めて家庭の果たす役割について考えさせられました。

和歌山県における子育てや教育への温かい取り組みを学んだ後の帰路では、会場周辺ですれ違う高校生たちの姿が、まるで自分の子どものように愛おしく感じられました。今回の大会を通じて、多くの学びや気づきを得るとともに、PTA 活動の意義や人とのつながりの大切さを再認識することができました。

今後の PTA 活動にも、この貴重な経験を生かしていきたいと思います。

